



豊津小学校の取り組み ～子どもが安心できる学校・地域づくり～

今回の「シリーズ学校・園では今」は、コロナ禍で多くの行事が縮小や中止となり、人と人との関わる場面も減ってしまう中、さまざまな工夫をしながら人と人とのつながりを大切にしたい「子どもが安心できる学校・地域づくり」を進めてきた、豊津小学校の取り組みについて紹介します。

誰もが安心して暮らせる地域・園・学校をめざして

新型コロナウイルス感染症の拡大と収束が繰り返される中、罹患者や濃厚接触者への誹謗中傷が大きな社会問題となっています。以前から「人と人とのつながり、誰もが安心できる地域づくり」を進めてきた豊津小学校では、コロナ禍において地域と共に何かできることはないかと考えました。

そこで、小学校区内の自治会長や学校運営協議会長、幼稚園長、幼稚園・小学校のPTA会長とも話し合い、地域全体に連名で「緊急アピール」と題したチラシを配付しました。チラシの吹き出しには、「みんな心配しているよ。早く元気になってね」「感染した人のことを悪く言うのは、おかしい!」「元気になったら、またいっしょにあそぼう!」など、新型コロナウイルス感染症について授業で学んだ児童たちの声が載せられ、家庭用に配付されたチラシには児童が自分の家族に向けたメッセージを直接書き込みました。保護者からは「家族で話し合うきっかけになりました」といった声が学校に届けられました。



「つながり」を大切にさまざまな取り組み

豊津小学校では、通学団などの日常生活や運動会などの行事、教科の学習や人権学習などさまざまな場面で「つながり」を大切にしたい取り組みを重ね、誰もが安心して過ごせる学校づくりを進めています。

それは新型コロナウイルス感染症についての学習でも同じです。

ある学年の「緊急アピール」のチラシを使っの授業で、先生が「自分がコロナウイルスにかかったら?」と投げ掛けました。すると、児童たちからは以下のような自分を責める言葉や不安な思いがでてきました。



- 家族や友達に「ごめん」
- 迷惑を掛けることになる
- いじめられないかな…
- また一緒に遊べるかな…

さらに先生が「新型コロナウイルスにかかったら自分が悪いの?」と問い掛けると、「かかってしまうことは誰でもある」「かかった人が悪いわけじゃない」といった声が上がりました。

そこで先生が「不安な気持ちでいる友達に自分ならどんな言葉を掛ける?」と投げ掛けると、児童たちからは次のような言葉がでてきました。

- 学校で待っているよ
- 誰も悪くないよ
- 治ってよかったね
- 治ったらいつも通り遊ぼう



そのようなみんなの言葉を聞いた児童たちは「安心した」「心がほっとした」「涙が出そうになった」と感じたそうです。

このように、豊津小学校では「お互いの思いを伝え合い聴き合う学習」を重ねることで、誰もが安心できる学校づくりを進めています。

★ 取材者の感想 ★

校長先生の「コロナ禍だからこそ創造力を発揮し、人と人とのつながりを深める取り組みを大切にしていきたい」という言葉が印象に残りました。豊津小学校が保護者や地域と共に「人と人とのつながり」をつくろうと、一枚のチラシをきっかけにして家族で話し合ったり、クラスで思いを伝え合ったりしたように、私自身も自分の家族や職場、地域の中で、思いを伝え合い聴き合うことを大切にしていきたいと思いました。